

# 平成 28 年度 名古屋大学大学院情報科学研究科 博士課程（後期課程）10 月入学学生募集要項

平成 28 年 10 月に、本研究科博士課程の後期課程に入学又は進学を志願する学生を下記により募集する。

## 1. 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び平成 28 年 9 月 30 日までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成 28 年 9 月 30 日までに授与見込みの者
- (4) 我が国において、外国に大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第 118 号）  
出願資格(5)により出願する者は、6 頁の「出願資格(5)により出願する者について」を参照すること。
- (6) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、平成 28 年 9 月 30 日までに 24 歳に達する者  
出願資格(6)により出願する者は、7 頁の「出願資格(6)により出願する者について」を参照すること。

## 2. 募 集 人 員

計算機数理科学専攻	若干名
情報システム学専攻	若干名
メディア科学専攻	若干名
複雑系科学専攻	若干名
社会システム情報学専攻	若干名

## 3. 願 書 受 付 期 間

平成 28 年 7 月 1 日（金）から平成 28 年 7 月 7 日（木）（土曜日・日曜日・祝日を除く）  
受付時間は、9 時から 16 時まで。（12 時から 13 時は除く）

## 4. 出 願 書 類

### 全員が提出する書類

- (1) 入学志願票（【様式1】に記入したもの）
- (2) 受験票、写真票（本研究科所定の用紙に記入したもの）
- (3) 志願理由書（【様式2】に記入したもの）
- (4) 履歴書（【様式3】に記入したもの）
- (5) 返信用封筒2通（受験票送付用、連絡用）

本研究科所定の返信用封筒2通に出願者本人の受信場所・郵便番号・氏名を明記して、提出すること。なお、受験票送付用封筒には242円切手を貼付すること。（ただし、海外の場合は返信に必要な郵便料金の国際返信切手券（IRC）を同封）

- (6) 宛名シール2枚（本研究科所定の用紙に記入したもの）
- (7) 修士学位取得（見込）証明書又は修士修了（見込）証明書
- (8) 成績証明書（最終出身大学院作成のもの）
- (9) 入学検定料 30,000円

ただし、本学大学院博士課程（前期課程）を修了し、引き続き本研究科博士課程（後期課程）へ進学する者及び国費外国人留学生は、入学検定料不要。

・所定の「検定料払込書」に必要事項を記入して、郵便局の受付窓口現金を添えて払い込む（ATMは利用しないこと。また、現金や郵便普通為替での納付はできない）。払込開始日は6月20日（月）。ただし、海外在住で郵便払込が困難な場合は、問い合わせること。

・「A. 払込取扱票」、 「B. 振替払込請求書兼受領証」及び「C. 振替払込受付証明書（検定料払込証明書）」のご依頼人氏名欄は必ず志願者本人の氏名とすること。

・払込手数料は志願者本人の負担。

・払込後、領収印を受けた「C. 振替払込受付証明書（検定料払込証明書）」を入学志願票の所定の場所に貼付すること。

・「B. 振替払込請求書兼受領証」は、本人の控えとして保管すること。

【注意】出願書類を受理した後は、いかなる理由があっても納入済みの検定料は返還しない。ただし、以下に該当する場合は、納入された検定料を返還するので、7月29日（金）までに情報科学研究科教務学生係に照会すること。

① 検定料納入後、出願しなかった場合又は出願が受理されなかった場合

② 検定料を二重に払い込んだ場合

- (10) 修士学位論文1部（写も可）及び論文要旨1部（修士学位論文を提出しないで修了した者はそれに代わる研究論文等）ただし、平成28年9月30日までに修士学位取得見込の者は、修士学位論文は不要であり、論文要旨1部のみを提出するだけでよい。

論文要旨については、【様式4】に記入するか所定の様式全てをワープロ等で作成してもよい。必要に応じて用紙を追加してもよい。

### 参考資料として提出することが望ましい書類

- (1) 修士論文以外に本人の研究能力を示す資料がある場合は、それらを1部（コピーでよい）及び必

要に応じてその概要を1部

- (2) 外国人留学生で日本語能力試験を受験したことがある者は、合格証又は成績通知書。複写したものを提出する場合は、「これは原本の複写に相違ありません」と記入し、署名又は押印すること。
- (3) 英語検定試験（英検・TOEIC・TOEFLなど）の資格をもつ者は、合格証又は成績通知書のコピー。複写したものを提出する場合は、「これは原本の複写に相違ありません」と記入し、署名又は押印すること。合格証又は成績通知書の有効期限は、平成25年4月1日以降受験分とする。

### 該当者のみ提出する書類

- (1) 外国人の志願者は、市区町村長の発行する住民票の写し又は住民票記載事項証明書を提出すること（いずれも在留資格を確認できるものであること）。  
ただし、日本国永住許可を得ている者は、提出を要しない。また、現在海外に在住している者は、国籍を確認できるもの（例えばパスポートの国籍が記載されている顔写真のある頁のコピー）を提出すること。
- (2) 官公庁、会社、団体等に在職中で入学後も引き続き在職する者は、受験承認書を提出すること（様式は随意）。
- (3) 現在国費留学生である者はその証明書（在学している大学発行のもの）を提出すること。ただし、学内からの受験者は提出不要。

## 5. 出 願 手 続

志願者は、出願書類を取りそろえ、本研究科所定の願書送付用封筒に入れ、情報科学研究科教務学生係に提出又は郵送すること。

### 注意事項

- (1) 出願書類を提出する場合は、なるべく本人が持参すること。
- (2) 出願書類を郵送する場合は、書留郵便とし、平成28年7月7日（木）16時までに必ず到着するよう情報科学研究科教務学生係あて送付すること。
- (3) 受験票は、郵送で本人に交付する（試験1週間前までに到着しない場合は、情報科学研究科教務学生係に確認すること）。
- (4) 出願書類に不備のある場合は、受け付けないので留意すること。
- (5) 出願手続き後は、書類の変更、差替、返却は受け付けない。

## 6. 選 抜 方 法

- (1) 入学・進学者の選抜は、口述試験の成績並びにその他提出された書類による総合評価で行う。
- (2) 口述試験は、次の日程により行う。ただし、出願者に特段の事情がある場合は、出願前にあらかじめ情報科学研究科教務学生係に連絡すること。
- (3) 口述試験の試験場は、当日全学教育棟A棟（名古屋大学東山地区配置図参照）1階玄関に掲示する。

(4) 試験場には、試験開始 30 分前に到着すること。

## 口述試験

修士学位論文又はそれに代わる研究論文及び博士後期課程における研究計画についての発表（あわせて 20 分程度）と発表についての質疑応答及び専門分野についての試問を行う。

専攻名	試験日	試験時間
計算機数理学専攻	8月4日（木）	9：30～
情報システム学専攻	8月4日（木）	9：30～
メディア科学専攻	8月4日（木）	9：30～
複雑系科学専攻	8月4日（木）	9：30～
社会システム情報学専攻	8月4日（木）	9：30～

注：発表の際には、PCプロジェクターを利用することができる。ただし、PCプロジェクターに接続するPCは各自持参すること。

## 7. 合格発表

平成 28 年 8 月 12 日（金）12 時 情報科学研究科棟玄関に掲示する。なお、郵送により合否を本人宛通知する。

また、掲示発表後、本研究科ホームページにおいても発表する。ただし、これは受験生の便宜を図るための速報であるため、必ず掲示又は郵送される合否結果通知により確認すること。

## 8. 入学手続

入学手続については、平成28年9月上旬本人に通知する。手続日は、平成28年9月下旬の予定である。

## 9. 入学料及び授業料

(1) 入学料 282,000円

(2) 授業料 前期分 267,900円（年額535,800円）

（注1）入学料は入学手続き時に納入する。授業料は、前期及び後期に分けて、前期にあつては4月、後期にあつては10月に納入する。ただし、入学初年度における前期授業料は、5月に納入する。

（注2）入学時及び在学中に学生納付金額の改定が行われた場合には、改正時から新たな納付金額が適用される。

## 10. その他

- (1) 出願資格、出願書類及び選抜方法等本研究科入学試験に関して不明な点は、あらかじめ問い合わせること。
- (2) 障がいのある者で、受験上特別な配慮を必要とする者は、平成28年6月3日（金）までに申し出ること。
- (3) 志願者は、出願に際して志望グループ・志望教員を決めるにあたり、希望する教員に事前に直接連絡をとること。
- (4) 教員の研究内容等については、下記のウェブページを参照すること。
- (5) 名古屋大学においては、構内への車両の入構規制を実施しているため、受験の際は、公共交通機関を利用すること。
- (6) 住所・氏名・生年月日その他の個人情報は、入学選抜、合格発表、入学手続き及びこれらに付随する事項にのみ利用する。また取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外には利用しない。

### ※不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜内容等に変更が生じた場合は、ホームページ <http://www.is.nagoya-u.ac.jp/>により周知するので、出願前や受験前は特に注意すること。

【照会先】 〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学大学院情報科学研究科教務学生係  
TEL 052-789-4721・4722  
<http://www.is.nagoya-u.ac.jp/>  
E-mail: [admission@is.nagoya-u.ac.jp](mailto:admission@is.nagoya-u.ac.jp)

## 出願資格（5）により出願する者について

### 1. 出願資格

文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示大学院係 118 号）。

次のいずれかの要件を満たす者であること。

- 1 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- 2 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

なお、「修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者」とは、学術論文、著書、研究発表、特許、作品等により、修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者である。

### 2. 資格審査

#### 2.1 提出書類

出願資格(5)により出願する者は、あらかじめ次の書類を平成28年6月3日(金)16時(必着)までに、情報科学研究科教務学生係へ提出又は郵送(書留便で封筒の表に「後期課程事前審査申請」と朱書)し、出願資格の有無についての資格の事前審査を願出すること。

- (1) 事前審査申請書(【様式5】に、本人が記載したもの)
- (2) 履歴書(【様式7】に、本人が記載したもの)
- (3) 事前審査シート(【様式8】に、本人が記載したもの)
- (4) 研究歴証明書(【様式10】に、本人が記入したもの)
- (5) 卒業証明書(大学のもの)
- (6) 成績証明書(大学のもの)
- (7) 業績として学術論文、著書、研究発表、特許、作品等の写し

#### 2.2 審査結果の通知

本研究科で資格審査を実施し、その結果は平成28年6月24日(金)までに本人に郵送する。

### 3. 出願書類

上記資格審査の結果、「出願資格あり」と判定された者は、募集要項の「4. 出願書類」に記載の書類を出願時に提出する。ただし、全員が提出する書類の「(4) 履歴書」「(7) 修了証明書等」「(8) 成績証明書」の提出は不要である。

## 出願資格（6）により出願する者について

### 1. 出願資格

本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、入学する年の3月31日までに24歳に達する者。

本研究科が「修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者」は、下記の2つのいずれかの要件を満たす者を想定している。

- (1) 学術論文、著書、研究発表、特許、作品等により、修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者。
- (2) 技術職や教育職などの専門的職業に就き、成果を挙げている者。

### 2. 資格審査

#### 2.1 提出書類

出願資格（6）により出願する者は、あらかじめ次の書類を平成28年6月3日（金）16時（必着）までに、情報科学研究科教務学生係へ提出又は郵送（書留便で封筒の表に「後期課程個別審査申請」と朱書）し、出願資格の有無についての資格の事前審査を願い出ること。

- (1) 個別審査申請書（【様式6】に、本人が記載）
- (2) 履歴書（【様式7】に、本人が記載）
- (3) 個別審査シート（【様式9】に、本人が記入したもの）
- (4) 卒業証明書（最終学歴の教育期間のもの）
- (5) 成績証明書（最終学歴の教育期間のもの）
- (6) （該当する場合は）業績として学術論文、著書、研究発表、特許、作品等の写し
- (7) （該当する場合は）研究職／専門職従事証明書（【様式11】に、所属の長等が証明したもの）

#### 2.2 審査結果の通知

本研究科で資格審査を実施し、その結果は平成28年6月24日（金）までに本人に郵送する。

### 3. 出願書類

上記資格審査の結果、「出願資格あり」と判定された者は、募集要項の「4. 出願書類」に記載の書類を出願時に提出する。ただし、全員が提出する書類の「(4) 履歴書」「(7) 修了証明書等」「(8) 成績証明書」の提出は不要である。

# 名古屋大学大学院情報科学研究科

## ● 研究科の基本理念

情報社会の発展にともない、「情報」は今や物質やエネルギーと並んで人間社会を構成する重要な要素となっています。名古屋大学大学院情報科学研究科では、工学、自然科学、計算機科学、人文科学、社会科学、認知科学、生命科学など様々な視点から「情報」を捉え、「情報」を学問として体系づけるとともに、領域の融合による新分野の創出を目指しています。本研究科では、情報科学の理論及び応用の両面からの教育・研究を通して、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与するとともに、情報科学の研究者、高度の専門技術者及び教授者を養成することを教育目的としています。また、本研究科では、情報科学の先端的研究遂行能力だけではなく、社会や文化の特性を理解し、社会的倫理観をも備えた人材を育成することを基本方針とし、様々な新しい試みを取り入れて総合的な教育・研究活動を行っています。

## ● 研究科の教育

情報に関する学問は、今後様々な学問領域と関わりを持ちながら発展していくと考えられます。そのため、本研究科は多様な学部・分野からの学生を受け入れ、情報科学の基礎から応用までをカバーする統合的で質の高い専門教育を目指し、以下のような教育を実践しています。

1. 情報に関わる幅広い知識を体系化した教育
2. 諸科学における情報現象の解明に必要な視点を身につけるための教育
3. 技術倫理、情報倫理等、社会的規範の重要性に配慮した教育
4. 社会の要請を理解・分析できる力を身につけるための教育
5. コミュニケーション能力と表現能力を醸成するための教育
6. 実際の情報システムを運用できる実践的な力を身につけるための教育

このように、本研究科では、情報科学の先端的研究遂行能力だけではなく、社会や文化の特性を理解し、社会的倫理観をも備えた人材を育成するような教育を推進しています。

## ● アドミッションポリシー

情報科学の持つ学術及び社会への影響力を理解し、その理論・技術基盤を探究し、実践的活用を目指す意欲と基礎学力のある学生を受け入れる。

## ● 学位

本研究科の博士課程（後期課程）において、所定の修了要件を満たした者に対しては、博士（情報科学）の学位が授与される。ただし、とくに理由を認める場合には、博士（工学）又は博士（学術）の学位が授与されることがある。



## ● 専攻の概要

本研究科は計算機数理学専攻、情報システム学専攻、メディア科学専攻、複雑系科学専攻及び社会システム情報学専攻の5つの専攻により構成される。各専攻の教員の氏名、連絡先については<http://www.is.nagoya-u.ac.jp/>を参照のこと。

### 1) 計算機数理学専攻

計算機数理学専攻では、情報科学の基礎を支える計算機科学及び数理情報科学の教育・研究を行う。具体的には、数理論理学、離散数学、確率解析、数値解析、計算量理論、符号理論、暗号理論、アルゴリズム論、計算モデル論、プログラム意味論、量子情報、量子計算、最適化などを対象としている。

本専攻の研究面での目標は、情報に関連する数理モデルの構築と解析を中心として情報科学を深く豊かに発展させることであり、教育面での目標は、計算機科学や数理情報科学に必要な知識及び思考力を身につけ、情報科学の発展と応用に中心的役割を果たせる高度情報技術者・研究者を養成することである。

### 2) 情報システム学専攻

本専攻では、情報技術を利用して社会における利便性、安全性、快適性を向上させる様々な目的にそった情報システムを構築するための最適なハードウェア及びソフトウェアの構成を決定し、それらの設計、開発を目指す情報システム学の教育研究を行う。また、半導体集積回路技術や情報通信技術の目覚ましい発展に対応して、情報システム学の新しい展開を目指す。

半導体集積回路技術の発展により、家電製品や自動車など様々な機器に組み込まれた小型の情報システムが集積システムとして実現されている。また、情報処理機器がネットワークに接続された大規模な情報システムをモバイル環境で利用することに伴い、情報システムを構築するソフトウェアは益々大規模化、複雑化している。このような背景を踏まえ、次世代情報システムの設計と構築に適用できる原理と技術の教育研究を行うことにより、実際の情報システムの設計、構築において指導的な役割を担える高度情報技術者及び情報システム学の発展を担える研究者を育成する。

### 3) メディア科学専攻

人間の活動は、産業、経済、社会、教育、芸術、医療・福祉、家庭など多岐にわたり、これらの諸相における迅速かつ正確な情報の抽出と表現とに支えられている。

本専攻は、基礎科学、工学、認知科学を基幹として、メディア科学の基礎理論と、その応用による知的システムの創造、及び人間の認知機能の解明を通して、情報化社会の発展に貢献し得る研究者と技術者を養成する。

#### 4) 複雑系科学専攻

自然、社会における複雑系は分子、ニューロン、エージェントなど、情報を伝達、変換、蓄積する能力を持つ多数の要素のネットワークとして構成されており、分散型情報システムとみなすことができる。複雑系の大きな特徴は、このような構成要素の相互作用によって、構成単位の性質からは予期できないような秩序構造や機能を動的、自律的に生み出すことにある。

複雑系科学は、こうした秩序や機能の自己組織化過程を情報処理過程とみなすことにより、普遍的な視座を得ることを目指す。多岐にわたる自然及び人工のシステムを対象とし、理論、実験、計算の方法を総合して多様な対象の中に隠されている普遍的な情報処理原理を明らかにする。

本専攻では、複雑系を解析するための革新的な計算手法を開発する教育研究を行い、従来の要素還元論的方法ではない、モデル系を「つくることによって理解する」構成論的方法を発展させる。また、分散した要素の自己組織化に基づく情報システムをデザインする分散的方法を開拓し、構成論的思考、分散的思考による新しい発想が可能な優れた技術者、研究者を育成する。

#### 5) 社会システム情報学専攻

本専攻では、情報技術の展開により高度に情報化される社会環境において、実世界が有する物理的実体・現象と、仮想世界が有する論理的対象・処理の融合を研究の視点として、人間社会にとって優位な実世界と仮想世界を構成している連携的、相補的に融合可能な環境、機構、機能について教育研究を行う。また、人間の智慧を醸成、創造、育成し、かつ、人間の智慧や創造的行為によって支えられる活動空間の構築に関するパラダイム、モデルが確立することから、情報技術の適用による知識依存型の社会システムの構築、及びそのアーキテクチャの探究だけでなく、情報技術の展開により、社会環境、社会機構に発生する様々な諸問題を評価、考察し、実世界と仮想世界の融合空間における人間の役割や人間社会の構成についても教育研究を行う。

本専攻は、情報化時代に即応できる人材育成の立場から、情報処理教育、情報技術の開発・適用、社会情報システムの機能設計・開発、社会情報環境のための情報ベース、利用者インタフェースの開発・構築等のニーズをより一層求め、社会へのシーズを育てることにより、情報化社会を積極的に支え、発展させる能力を有した人材育成を行う。